

岳精流日本吟院 取手教場 創立十周年記念大会



日時 平成26年9月28日(日)

10時開会

場所 守谷市中央公民館
(大ホール)

後援 岳精流日本吟院総本部



岳精流日本吟院総本部
家元 横山 岳精



岳精流日本吟院総本部
宗家 横山 精真

真善美 横山岳精

詩を吟ずる心は自然の真なるもの触れ

詩を吟ずる心は自然の美なる心を呼び起し

詩を吟ずる心は自然の美なるものを感動する

岳精会会詩

松 口 月 城

吟の極致は真善美に在り
一句一声心肅然たり

自識る古道顔色も照らす
賢聖英傑双眼の前

仰観る富岳何ぞ秀麗なる
萬世魂我たり東海の天

○開会の言葉
○吟礼

新井遼風
本間林風

第一部 会員吟詠

一	名槍日本号	松口月城	小倉保助	1
二	不識庵機山を撃つる 因に題す	頼山陽	市原敏男	1
三	不識庵機山を撃つる 因に題す	頼山陽	丸山道隆	1
三	不識庵機山を撃つる 因に題す	頼山陽	古谷立美	1
三	九月十日	菅原道真	大橋トヨ	5
三	九月十日	菅原道真	根本裕美子	5
三	九月十日	菅原道真	小林玲子	5
四	大楠公	徳川景山	青山富貴子	6
五	平泉懐古	大槻磐溪	平原綾子	5
六	後夜仏法僧鳥を 聞く	空海	竹下仁志	1
七	山中問答	李白	関屋義信	1
八	清明	杜牧	池田頼安	1
九	京都東山	徳富蘇峰	尾花喜久子	4
十	半夜	良寛	田中千鶴子	6

六	五	四	三	三	二	二	九	六	七	六	五	四	三	三	二
夜墨水を下る	寒梅	富嶽	胡隱君を尋ぬ	江南の春	春を探る	中庸	修学	菊花	長寿吟	早に白帝城を 発す	春思	両英雄	偶成	春簾雨窓	春流
服部南郭	新島襄	乃木希典	高啓	杜牧	戴益	元田東野	夢窓疎石	白居易	作者不詳	李白	賈至	徳富蘇峰	朱熹	頼鴨屋	紫条時頼
須賀恵山	落合和山	広瀬友山	北島愛山	黒木當泉	西條清泉	三好伸司	小幡洋子	龍富美子	二宮愛子	白水伶子	竹刈京子	内村正明	佐久間康郎	松村秀子	宝金祐吉
6	2	水3	6	6	5	1	5	5	3	5	5	2	2	6	水3

三	三	元	元	七
爾靈山	昔遊を念う	秋思	涼州詞	汪倫に贈る
乃木希典	杜牧	劉禹錫	王翰	李白
越智龍仁	龍雪	本間林風	新井遼風	龜山幸風
2	1	2	3	6

第二部 企画構成吟

常陸国めぐり

構成……越智龍麗
 スライド……新井遼風
 越智龍仁
 オーター……梶 龍翔

三	三	三	三	三
歌謡曲入り	船頭小唄	筑波山の絶頂に登る	筑波嶺の <small>和歌</small>	
渡辺岳吟	武田静山	安積良斎	陽成院	
男性合吟	女性合吟	内村正明	龜山幸風	北島愛山
2	6	2	6	6
				黒木當泉
				西條清泉

										三五	潮来の夕	角光嘯堂	須賀恵山	6
										三六	俳句 下総の	小林一茶	龍 龍雪	1
										三七	俳句 行く歳や	小林一茶	三好伸司	1
										三八	短歌 さしのぼる	明治天皇	新井遼風	3
										三九	金州城下の作	乃木希典	越智龍仁	2
										四〇	短歌 指してゆく	徳川景山	本間林風	2
										四一	弘道館に梅花と 賞す	徳川景山	落合和山	2
										四二	水戸八景	徳川景山 (A)	佐久間康郎	
												(B)	三好伸司	
													佐久間康郎	
													関屋義信	
													龍 龍雪	
													新井遼風	
													落合和山	
													内村正明	

第三部式典

一 昼食 一

。来賓祝辞

- 副幹事長 園田精鵬 先生
- 幹事長 家吉精雄 先生
- 宗家 横山精真 先生

。花束贈呈

。感謝状 木村清忠 広瀬友三郎

。謝辞

敬場長 越智龍麗

第四部来賓吟詠

三	楠公を詠ず	日柳燕石	深谷霞総 先生	霞朗詠会刀水会 取手支部 副会長	2
四	中秋の月	蘇軾	飯野霞雲 先生	霞朗詠会刀水会 取手支部 相談役	3
五	寒梅	新島襄	原信田霞江 先生	霞朗詠会刀水会 取手支部 副会長	5
	(語り)		中川霞敬 先生	霞朗詠会刀水会 取手支部 会長	
六	平泉懐古	大槻磐溪	園田龍風 先生	岳精流日本吟院府中支部	8
七	新涼書を讀む	菊池三溪	壺屋龍心 先生	岳精流日本吟院 府中支部	7

只	立秋の雨	徳川光圀	駿河龍桜先生 <small>岳精流日本吟院府中支部</small>
只	秋思	劉禹錫	梶龍翔先生 <small>岳精流日本吟院府中支部</small>

第五部 本部役員吟詠

辛	湘江を渡る	杜審言	山城精和先生 <small>総本部研修運営部部長</small>
---	-------	-----	----------------------------------

第六部 剣詩舞その(一)

五二	日本刀を詠ず	徳川光圀	(吟)	(剣)	長谷川陳鷹	2
五三	偶成	大鳥圭介	(吟)	(剣)	本間林風	2
五三	曾我兄弟	松月城	(吟)	(剣)	新井遼風	3
五三	曾我兄弟	松月城	(吟)	(剣)	堀内周子	
五三	曾我兄弟	松月城	(吟)	(剣)	中川敬子	
五三	曾我兄弟	松月城	(吟)	(剣)	田中武風先生 <small>我孫子カルネー・大田岳精会</small>	3
五四	九月十三夜 陣中の作	上杉謙信	(吟)	(剣)	上岡富子	
五四	九月十三夜 陣中の作	上杉謙信	(吟)	(剣)	内村正明	2

第七部 剣詩舞その二

—— 休憩 ——

<p>五 富士山</p> <p>舞い比べ</p>		<p>五 本能寺</p>	
<p>石川丈山</p>		<p>頼山陽</p>	
<p>千峰流剣詩舞道 甲源流剣詩舞道会 社中 神刀流神刀館 社中</p>		<p>千峰流剣詩舞道 千代田五精会 松尾千江 先生 我孫子刀比古一・千代田五精会</p>	
<p>取手教場 全員 6</p>	<p>越智龍麗 个</p>	<p>越智勝流 神刀流専務理事</p>	<p>越智勝流 神刀流専務理事</p>
<p>六 従軍行 (その二)</p>		<p>七 彰義隊</p>	
<p>王昌齡</p>		<p>菅原道真</p>	
<p>(吟) (剣) (剣) (剣)</p>		<p>(舞) (舞)</p>	
<p>上岡富子</p>		<p>伊藤由香</p>	
<p>中川敬子</p>		<p>伊藤舞香</p>	
<p>大久保富源 先生</p>		<p>甲源流剣詩舞道会 会長</p>	
<p>西山定山 先生</p>		<p>甲源流剣詩舞道会</p>	
<p>我孫子刀比古一・千代田五精会</p>		<p>我孫子刀比古一・千代田五精会</p>	
<p>1</p>		<p>1</p>	

第八部 宗家吟詠

<p>五</p>	<p>秋風の引</p>	<p>劉禹錫</p>	<p>岳精流日本吟院 宗家 3 横山精真先生</p>
<p>六</p>	<p>合戦川中島</p>	<p>角光囃堂 (吟) (剣) (剣)</p>	<p>上岡富子 総本部 幹事長 1 家吉精雄先生</p>
<p>六</p>	<p>逸題</p>	<p>橋本左内 (吟) (剣) (剣)</p>	<p>園田精鵬先生 総本部 副幹事長 3</p>
<p>六</p>	<p>月夜荒城の 曲を聞く</p>	<p>水野豊洲 (舞)</p>	<p>長谷川陳鷹 太保富源先生 甲源流剣詩舞道会 会長</p>
<p>六</p>	<p>本能寺</p>	<p>頼山陽 (剣)</p>	<p>赤池美源先生 甲源流剣詩舞道会</p>
<p>卒</p>	<p>日本刀を詠ず</p>	<p>徳川光圀 (剣)</p>	<p>伊藤舞香 甲源流剣詩舞道会</p>

第九部 教場長吟詠

空	
山中の月	
真山民	
(吟)	(舞)
越智龍麗	越智勝流
岳精流 神刀流 神刀館 茨城本部 長	神刀流 神刀館 茨城本部 長

○ 大合吟 『富士山』 三好伸司

○ 閉会の言葉 北島愛山

○ 万才三唱 龍 龍雪

○ 懇親会 ひやう亭

教える場にある者は
幸せなり

教わる場にある者も
幸せなり

役員分担表

懇親会	○越智 龍仁・本間 林風 新井 遼風
ご案内(守谷駅改札口) (ひまわり亭前)	落合 和山・関屋 義信
会計	亀山 幸風・○黒木 當泉
音響照明(プロジェクター) (ビデオ)	佐久間 康郎・竹下 仁志 越智 龍仁・新井 遼風
接待	堀内 周子 ○中川 敬子・上岡 富子
式典	○越智 龍仁・三好 伸司
舞台	○龍 龍雪・新井 遼風・落合 和山 池田 頼安・佐久間 崇之・長谷川 陳鷹 上野山 富貴子・小林 玲子・大橋 トヨ
会場(弁当)	○泉 伶子・松村 秀子 小幡 洋子・竹渕 京子 田中 千鶴子・平原 綾子
連絡・進行	○本間 林風・三好 伸司 内村 正明・宝金 祐吉 古谷 立美・市原 敏男
司会	OB池田 千代子
来賓受付	○須賀 恵山・北島 愛山 黒木 當泉・西條 清泉
大会委員長	越智 龍仁・龍 龍雪
大会委員長	越智 龍麗



守谷市中央公民館・大ホール
 茨城県守谷市百合ヶ丘二丁目2540番地の1
 ☎0297-48-6731
 守谷駅中央西口を出て、徒歩 約8分